

校長室だより(No.2)

令和3年4月21日
丹波市立黒井小学校長
谷口 千尋

今のコロナ禍のように、今後の社会は、予測が不可能と言われていています。これからのこの社会を担う子どもたちを育てるためには、学校と地域がよいパートナーとして連携・協働して、今の子どもたちを取りまく課題を解決し、たくましい子どもを育成する取組を進めていくことが大切だと考えます。そのために学校と保護者・地域の皆さんが「どのような子どもたちを育てるのか」、「そのために何を実現していくのか」といった目標やビジョンを共有することが重要になってきます。

令和元年度から丹波市でもはじまりましたコミュニティ・スクール(学校運営協議会)は、学校と保護者・地域の皆さんが力を合わせて学校の運営に取り組むことができ「地域とともにある学校」にしていくためのよい仕組みです。

4月16日に、第1回黒井小学校学校運営協議会を開催いたしました。コロナ禍の中ですので、短時間でしたが、学校職員を含む10名の委員に参集いただき、地域住民の代表の委員さんはじめ、保護者の代表の委員さん、黒井地区自治振興会の代表の委員さんなど多方面の皆さんにご参加いただきました。多くの皆さんのご意見をこの学校運営協議会という仕組みに積極的にいかしていきたいと考えています。意見交換をする中で、黒井の子どもたちのために、地域とともにある学校を目指しまして一歩前進できる学校にしていきたいと考えました。

会では、(1)丹波市の教育方針、(2)令和3年度黒井小の学校運営方針についての説明、(3)新型コロナウイルス感染症にかかる黒井小学校の対応、(4)コミュニティ・スクールとしての年間計画について説明しました。年間計画では、大きく分けまして

- (1)「地域の力で子どもたちの安全・安心」のための交通安全にかかる取組
- (2)「子どもたちの学ぶ力を 心のやさしさ」のための講演会や人権にかかる学習支援
- (3)「地域を愛する子どもたち」を願う取組

があることを確認しました。

その中でも昨年度は、「挨拶」に重点を置き、「あいさつ街道」の実現に向けての取組がなされてきたことと今後の継続し取組の必要性が話し合われました。挨拶は、上記の(1)(2)(3)のすべてに通じるもので、多くの人に参加いただけたと思います。



昨年取り組まれた、子どもたちからのキャラクター募集、幟旗づくり、街道の設定、幟の設置など、多くの人が様々な方面からかかわることで、「地域子どもたちを共に育てたい」という意識を参加いただいた人で共有できたのではないかと思います。

コロナ禍であるからこそ、「人とのつながり」や「地域のあたたかさ」を大切にしたい取組を今年も地域の皆さんと共に継続していきたいと強く思いました。